

知覚動考

「誰一人取り残さない 子供が育つ学校づくり」

寒河江市立南部小学校
校長室だより
校長 白田 敏幸

「失敗から育つ力を信じて」

近年、社会全体に「失敗を許さない空気」が広がっているように感じる場合があります。子供たちも大人も、常に完璧であることを求められ、少しの間違いやつまずきに対して厳しい目が向けられる場面が増えているように思います。

しかし、世界の教育の多くでは「完璧にはできないこと」が前提とされており、だからこそ試行錯誤を重ねる文化が根づいています。失敗を通して学び、成長することこそが、本当の力を育む道なのでしょう。

有名な逸話ですが、アインシュタインが授業でわざと九九の最後を間違えて ($9 \times 10 = 91$) 書いたところ、生徒たちはその間違いを笑ったそうです。彼はこう語ったといいます。「9つの正解 ($9 \times 1 \sim 9 \times 9$) には誰も拍手をしなかった。でも、1つの間違いには笑いが起きた。社会は成功よりも失敗に目を向けがちだ。けれど、間違えない人がいるとすれば、それは何も挑戦しなかった人だ」と。

本校はチーム南部小として、日々、子供たちの成長のために尽力しています。校長の目から見ても、本校の教職員は子供たちに寄り添った教育ができていると自信をもっていうことができます。

ただ、教員も人間ですので、時には判断を誤ったり、対応に至らぬ点があったりすることもあります。その際にはご指摘をいただくこともありますが、過度なご要望（保護者の方にとっては必要な要望なのかもしれませんが…）が重なると、授業準備の時間が削られたり、心身の負担が大きくなったりしてしまうこともあります。子供たちの前に立つ教員が、しっかりと準備をし、元気な姿で授業に臨むことが、何よりもよい教育につながります。その点をご理解いただけますと幸いです。

本校では、「子供が自ら育つ」環境づくりを大切にしています。失敗しないように手をかけすぎるのではなく、子供自身が考え、挑戦し、時にはつまずきながらも乗り越えていく力を育てたいと考えています。

また、全ての子供につけたい力として次の4つの力を掲げています。

- 自ら考え行動する力（自律）
- 一歩踏み出す力（挑戦）
- 人を大切にできる力（尊重）
- 考え抜く力（創造）

子供が困っている時、すぐに手を差し伸べるべきか、そっと見守るべきか、大人として迷う場面もあるかと思います。そのような時には、「この子にどんな力をつけたいのか」「この大人としての行動は子供の将来につながるのか」と、少し立ち止まって考えていただけるとありがたく思います。

子供は、失敗から多くのことを学びます。時には悔しい思いや、困難な経験もあるかもしれませんが、でも、親として辛い思いをしながらも側でそっと見守るのも、子供への深い愛情のひとつだと考えています。

今後とも、子供たちの成長を共に見守り、支えていただけますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

